

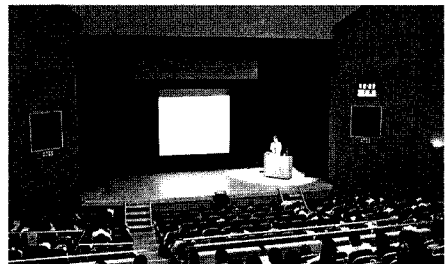
題字は駒井区社協名誉会長

高齢者虐待防止研修会

高齢者が地域で安心して暮らすために、 専門職と地域のネットワークの 大切さを考えました。

城東区をはじめ5つの区地域包括支援センターで構成する東ブロック地域包括支援センター連絡会では、昨年9月21日にクレオ大阪東で、ケアマネジャーや保健・医療・福祉ネットワーク推進員、地区ネットワーク委員、民生委員など高齢者に日常的に関わる方々を対象に、高齢者虐待防止のための研修会を行いました。

平成18年4月に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、法的にも高齢者虐待防止にかかる国や市町村の責任が明確になりました。あわせて、国民や高齢者福



大勢の参加者の熱気に包まれた研修会会場

祉に携わる者にも高齢者の虐待の早期発見などに関する責務が定められるようになりましたが、実際にはどう対応していけばよいのか、まだまだ手探り状態というのが現状です。

そこで今回の研修会では、まず基調講演として、法律家の立場から弁護士の青木佳史さんに「虐待行為の判断基準として、生命の危険などに限定されることなく、『安心して暮らす権利』が守られているかどうかをいろんな立場の目から見て判断することが必要であること」や「保健・医療・福祉の専門職は、虐待防止に向けての責務があること」、「まずは『おかしい』と気づく、早い段階での発見が必要であり、そのためには地域住民も含めた地域のネットワークが重要であること」などを話していただきました。

引き続いてのパネルディスカッションでは、パネリストとして参加した城東区と鶴見区の地域包括支援センターから、

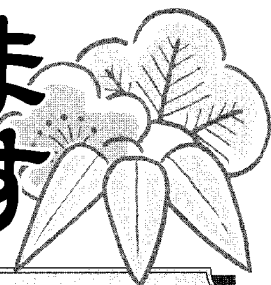


弁護士の青木佳史さんも交えて行われたパネルディスカッション

これまでに実際に対応した事例をもとに、問題解決に向けての具体的な取り組み内容が紹介され、ケアマネジャーやホームヘルパーをはじめ、医師、看護師、民生委員、保健・医療・福祉ネットワーク推進員などが連携して対応する「チームケア」の重要性が訴えられました。

当日は、高齢者虐待防止への関心の高さを物語るかのように約300人の参加があり、参加者からは「事例がとても具体的だったのでわかりやすく、実際に自分がどう関わっていけばよいのかが大変参考になった」「弁護士さんから、借金など金銭のからんだ事例の解決方法がうかがえてためになった」、「チームで連携して問題を解決することの大切さがよく理解できた」といった感想が多く寄せられました。

新年あけまして おめでとうございます



社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会
会長 吉田定治

新年あけましておめでとうございます。

区社協設立以来、56年にわたり社会福祉の発展にご尽力されてこられました、駒井前会長の後を受けまして、平成19年5月より城東区社会福祉協議会の会長に就任いたしました吉田定治でございます。駒井前会長の熱意を引き継ぎながら、微力ではございますが地域福祉の向上に努めてまいり所存でございますので、皆様方の変わらぬご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、わが国では、急激な少子高齢化の進行により、年金や医療、福祉、介護といった社会保障制度の不安が大きく叫ばれる中、社会福祉を取り巻くシステム全体の見直しが進められております。

一方、核家族化の進行や家族意識の希薄化などにより、家庭・家族のあり方が大きく変化し、また子育てや介護をめぐる児童虐待・高齢者虐待といった事件や、学校でのいじめによる自殺などの痛ましいニュースが世間を騒がせており、私ども社会福祉に携わる者にとっても大きな課題が山積しているところでございます。

このような状況の中、当区社協におきましては、従来の諸事業のなご一層の発展に加え、地域福祉活動はもとより、地域包括支援センターにおいて介護に関する総合的な相談や高齢者虐待の早期発見、成年後見制度の周知、また地域生活支援事業として、子どもから高齢者までの幅広い相談・支援を行っております。

今後とも温かいご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



城東区長 高原正典

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、ご家族ともどもお健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素は、市政・区政の各般にわたり格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

近年、社会情勢の変化は目まぐるしく、少子高齢化が急速に進展し、人口減少化の時代が到来しています。それにともない家庭機能や地域機能が低下しつつあり、今までに例のない社会状況が生じています。

このような厳しい時代に変化していくなか、わが国の社会福祉はかつてのような保護・救済にとどまらず、必要とするサービスを必要に応じて利用でき、自分らしい生活を送れるよう自立を支援する制度・施策へと変化しています。

そのような中で、増大・多様化する市民ニーズにきめ細やかに対応するとともに自立支援、利用者による選択の尊重を基本的に考え、福祉サービスの効率的な運用をめざす取り組みが進められようとしております。

城東区におきましては、区長改革 Manifesto を策定し、親しみと愛着をもっていただける区役所づくりを進めており、城東区社会福祉協議会をはじめとする各種団体と連携を図りながら、「住んでよかった城東区、住んでみたい城東区」をスローガンに、区民の皆さまと協働しながら安心・安全なまちづくりを更に進めてまいり所存でございます。

今後とも、皆さま方のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のごあいさつとします。

評議員

評議員

副会長

役員一同

- 芳野和子
- 吉田秀子
- 吉田定治
- 吉田美彦
- 吉川安彦
- 吉川勝彦
- 横山但久
- 松葉常子
- 樹屋義雄
- 堀田俊二
- 日野淑子
- 服部光昭
- 橋本頼明
- 橋本頼明
- 西島勝己
- 中島勝己
- 塚本勝己
- 谷口勝己
- 田中勝己
- 多田勝己
- 高島勝己
- 高木勝己
- 佐賀忠三
- 古財洋子
- 久米孝夫
- 久保武嗣
- 川井邦彦
- 榊山千義
- 岡田正義
- 岡田須美子
- 江草正久
- 浦田賢一
- 井土賢一
- 石原正美
- 碓方正美
- 新瀬正美
- 高瀬正美
- 浅原正美
- 松井正美
- 塩川正美
- 矢野正美
- 宮地正美
- 東海正美
- 寺島正美
- 出口正美
- 貞利正美
- 小川正美
- 河村正美
- 奥村正美
- 梅田正美
- 伊東正美
- 奥野正美
- 後藤正美
- 吉田正美
- 駒井正美

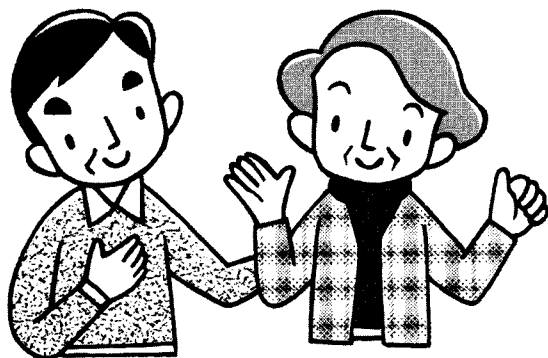
住み慣れた城東区で「自分らしく」暮らし続けるために

「城東区地域包括支援センター」は、高齢者の状態や必要に応じて、介護や医療、福祉などの支援が受けられるよう援助を行っています。

平成18年4月に実施された介護保険法の改正で、介護が必要とならないように、また必要となってもそれ以上に悪化しないように、「予防」に力を入れていくことになりました。

「城東区地域包括支援センター」は、そうした考えの中から誕生したもので、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士などの専門職員が互いに連携しながら、住み慣れた城東区で尊厳のあるその人らしい生活を続けていただくための支援や援助を行っています。

具体的な事業の内容をご紹介します。



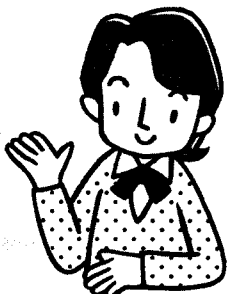
介護や福祉に関するご相談を、受け付けています。

「最近、一人暮らしのAさんを見かけないけど…」 「うちのおじいちゃんに認知症の症状が出始めたのだけど、どうしたら？」 など、介護や福祉に関するご相談を受け付けています。必要に応じて訪問し、適切なサービスにつなぎます。

虐待や悪質商法の被害などから、高齢者を守るための活動を行っています。

高齢者への不適切な介護や暴力をはじめ、悪質商法や詐欺などの被害から高齢者の権利を守るために、虐待の早期発見のための地域のネットワークづくりや、成年後見制度の利用促進、消費者被害にあわないための情報提供などを行っています。

高齢者の状態が変化しても、継続的に支援していく体制づくりを行います。



高齢者の状態が変化しても、継続的に支援が受けられるよう、各機関の連携を図る中心的役割を果たしています。



要支援の方や、要介護状態となるおそれのある方のケアプランの作成を行っています。

「要支援」の方への予防給付や介護予防のためのケアプラン作成など、できるだけ自立した生活が送れるように支援しています。

私たちが、皆さんの地区を担当しています!

放出中学校区



(今福・放出小学校) 担当 吉村・橘田

蒲生中学校区



(榎並・聖賢・成育小学校) 担当 別所・畠中・谷田

城陽中学校区



(嶋野・中浜・城東・森之宮小学校) 担当 朴

董中学校区



(関目・すみれ・関目東小学校) 担当 石川

城東中学校区



(諏訪・東中浜小学校) 担当 枝澤チーフ・加藤

鯉江中学校区



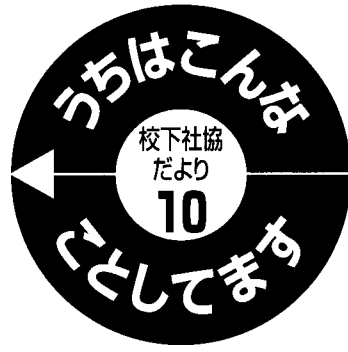
(鯉江・鯉江東小学校) 担当 丸山・大平

城東区内の5つのよさこいチームが合同で舞台発表を行った「城東オータムフェスタ」で



発表の場が増えて練習にも力が入る

若い世代で大きな盛り上がりを見せ、全国的なブームとなっている「よさこい」。嶋野地区でも昨年、「嶋野踊り隊 レッツ シギンズ」が誕生した。きっかけは、梅田晋次郎嶋野社会福祉協議会会長の「嶋野でもよさこいチームを作ろやないか」というひと声だった。「レッツシギンズ」発足への思いを梅田会長にうかがった。「嶋野校下は城東区内でも人口が多い、つまりは子どもの数も多いんです。子どもの関わる



レッツ ビギン!

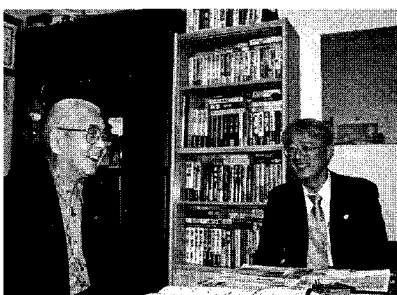
ひと声で子どもたちと大人たちの交流が始まった!

嶋野校下社協



ったようで、ますます踊りにも磨きがかかってますね」と話された。こうして地域の活動の中で育った子どもたちが将来の地域の次の担い手になってくれるだろうと梅田会長らの期待も大きい。

事件が多発するなか、嶋野校下では独自にバトロールカーを導入するなど、子どもたちの安全に気を配っていますが、よさこいもまた子どもたちの健全育成を狙ったものです」と語られる。チーム名の「シギンズ」が「レッツ ビギン! (始めよう)」と嶋野の子の複数形シギノスを掛け合わせたもの。当初は小学生だけを対象としたが、引率してきた保護者も含め、地域の大人たちも加わり、現在は3歳から67歳までの80人近くが集まっている。代表の墨武司さんは「幅広い世代が参加することで、地域の大人との交流が進み、子どもたちの登下校時の見守りにつながっているようです。すでに盆踊りや運動会、城東まつりでデビューを果たしていますが、なかでも大阪府下で大々的に行われた、大阪メチャハピ祭では新人奨励賞を受賞しました。子どもたちの自信にな



「参加者がもっと増えれば、チームを分けてさらに盛んに」と語る梅田会長(左)と墨さん



ボランティアビューローかわら版

城東区

「ボランティアビューローかわら版」は、ボランティアビューローと地域の皆さんをつなぐ情報コーナーです。

TEL 6936-1153 FAX 6936-1154

「ボランティア合同連絡会」研修会 ハンセン病国立療養所入所者の方々と交流を通して、 偏見の歴史と医療について学びました。

ボランティアグループと個人ボランティアで構成される「ボランティア合同連絡会」では、昨年10月11日～12日の2日間、岡山県瀬戸内市のハンセン病国立療養所「長島愛生園」と「呂久光明園」を訪れ、入所者の方々と交流研修会を行いました。

ハンセン病は、現在の日本では発症者が年間5人以下となり、治療により障害を残すことなく完治しますが、かつては治療薬もなくハンセン病の後遺症による障害（末梢神経が冒されることによる、顔や手足の変形や運動・知覚マヒ）が残ったことなどから、数え切れない悲劇が生まれました。現在は患者の隔離政策の根拠となつたらい予防法も廃止され、平成13年には国がハンセン病政策に対する責任を認めています。

研修会では1日目に長島愛生園を訪ね、到着後歴史館をはじめ、園内の見学を実施。続いて入所者の体験談として、自治会総務委員会の谷本静夫委員長から、強制収容隔離が行われた時に医師と看護師が寝床に土足で踏み込んできたことやクレゾールの風呂に入れられたことなど、当時の

1日目の夜には、翌日の入所者の居室訪問に備えての質問の準備を行った▼



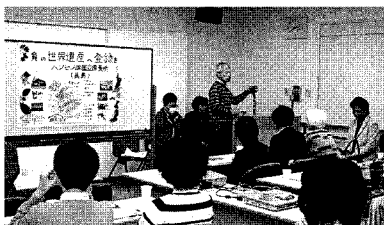
▲「呂久光明園」の園内を見学

▶11月17日の合同連絡会でグループごとに研修会についての発表が行われた

患者に対する人権侵害の実態をお話いただきました。

2日目に訪問した呂久光明園では園内を見学した後、加藤秀美副看護師長から「ハンセン病の歴史と医療」のテーマで、医療的見地から詳しくお話していただきました。その後、5つのグループに分かれて入所者の居室を訪問。入所者の方からそれぞれ、「妹が結婚する時、兄である自分の存在を隠されたこと」や「療養所のある島へ渡る橋のところでの家族との別れがなかったこと」など、偏見と差別の中でのつらい日々についてうかがいました。その一方で「偏見のない自動車教習所の教官のもとで車の免許を取得し、ドライブするのが楽しみになったこと」や国がハンセン病政策に対する責任を認め補償が行われたことで「ようやく家族に会えたことが嬉しかった」と語られているのが参加者に強い印象を残したようです。

参加者へのアンケートでは、「報道の内容だけで知ったつもりになっていたけれど、実際は想像するより悲惨な人権侵害が行われており、正しい知識と



▲島内から出ることなく亡くなり、遺骨の引き取り手のなかった入所者の方々が眠る納骨堂



▲交流研修会の参加者の皆さん（長島愛生園・歴史館にて）

▲「人間回復の橋」としてハンセン病隔離のシンボルとされた呂久長島大橋

情報を持たないことの恐さを感じた」や「正しく知らないがゆえに差別や偏見があり、不本意ながら自分も加害者の一人になっていたのではないか」、「これからは今回の体験を、自分の身近な人から一人でも多くの方に伝え、ハンセン病についての正しい理解を広めることから始めたい」といった感想が寄せられています。

ボランティアさんの募集を行っています!

ボランティアといっても、難しいことはありません。自分の趣味を生かしたことやお話し相手、外出の手助けなど、いろいろな活動の場があります。一度、ご相談にお越しください。

【活動例】

- 施設（高齢者、障害者、児童など）でのお話相手やお手伝い
- 外出のお手伝い
- 子どもの遊び相手や見守り



サークル青空

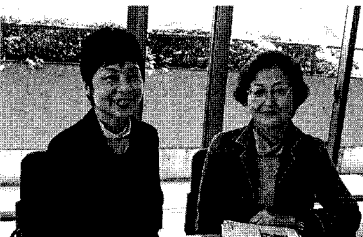
仲間の死を乗り越えて再スタート ミュージカルを身近に見ていただきたくて

数あるボランティアグループの中でも珍しい、ミュージカルによるボランティア活動を行っているのは「サークル青空」です。発足は2004年4月。50歳以上のメンバーから構成されるミュージカル劇団「発起塾」の有志7人が、「劇団の公演に足を運ばない方たちにもミュージカルを気軽に楽しんでもらいたい」と活動を始めました。しかし、2006年12月に仲間の一人が突然に亡くなり、そのショックから半年間活動を休止。昨年7月に、新たなメンバーを加えた12人で「サークル青空」として再スタートを切りました。



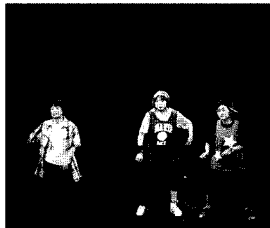
新しい仲間を加えて再開した「サークル青空」のみなさん

「亡くなった仲間が書いた脚本を見ると、どうしても思い出してしまうので、つらかったです。しかし、以前に訪問した施設などから『どうなってますか』『いつ再開しますか』の連絡が相次ぎ、私たちが待ってくださっている方がいるのなら活動を再開することにしました」と副代表の西田弘子さん。主な訪問先は、高齢者福祉施設のデイサービスや幼稚園ですが、なかでも高齢者の方に対しては飽きさせないようにと公演時間を15分とし、その短い時間の中にも衣装の早替わりを取り入れるなどの工夫をされているのだとか。



「裏方も含めたチームワークの大切さや、低コストでの衣装づくりなど、ボランティア活動が劇団での活動にも活かされていますよ」と語る浦田さん(右)と西田さん

メンバーが参加する発起塾の公演風景



「メンバーは59歳から68歳で、平均年齢が64歳。若い方が演じるミュージカルと違って、年齢の近い私たちが見せるから親近



ボランティアなどで活躍するシニア活動団体の紹介を行った「アクティブシニアフェア シニア活躍見本市」に参加

感を持ってもらえるのでしょうか、いつも大いに盛り上がりやすい。帰りには握手を求められたり、「また、来てね」とおっしゃっていただいたりして私たちが元気をいただいています」と代表の浦田栄子さんは語っています。また、舞台だけでなく、一緒に踊ったり体を動かしたりする時間も設けており、「施設の方からも利用者の皆さんの雰囲気明るくなったとおっしゃっていただいて、私たちは介護をする体力も資格もありませんが、自分たちのできることでお役に立てているのかなあと考えています」と西田さん。今後は、もう少し人数を増やして2チームにできれば活動の範囲も広げられるだろう、と抱負を語ってくださいました。



地域の皆さんが安心して暮らせる まちづくりをめざして

区内16地区に設置された「地区ネットワーク委員会」では、地域の住民の皆さんが安心して暮らせるよう、そして互いに助け合えるまちづくりをめざして、日々相談業務や「ふれあいまちづくり事業」などに取り組んでいます。今号は聖賢地区の取り組みと、悪質商法をテーマに開催した研修会のレポートをご紹介します。

聖賢地区

民生委員さんたちと連携して 高齢者の方々の交流の場づくりを

聖賢地区で11月1日、聖賢地区ネットワーク委員会と聖賢地区民生委員協議会の主催で「干支の貼り絵とぜんざいを楽しむ会」が行われました。開催の主旨について、聖賢地区ネットワーク推進員の村田節子さんは「家に引きこもりがちな高齢者の方に気軽に交流できる場を提供しようと日頃から食事サービスなどを行っている民生委員さんたちの取り組みと、ふれあいまちづくり事業と合同で何かしたいと考えていたんです」と話されています。

会場には一度に入りきれない86の方が集まり、貼り絵教室も2回に分けて行われるほどの盛況ぶり。参加者の方

参加者たちに大好評だったぜんざい

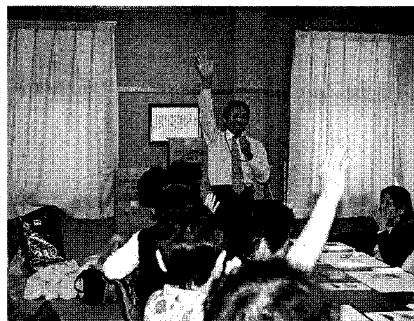


民生委員の佐野さん(左)と大道さん(右)。中央は村田さん

らは「前回作った変わり鶴もケースに入れて飾ってあるので、今回のも飾りたい」とか「貼り絵は初めてだったけど楽しかった」といった声が聞かれました。また、貼り絵の後には、民生委員の皆さんが前日から用意していたというぜんざいがふるまわれ、「昨日から作ってくださっていたと聞いてびっくり。道理でおいしいです」と喜ばれていました。

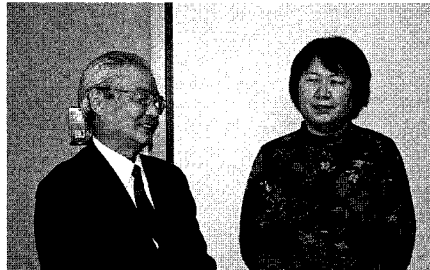
聖賢地区ではこの催しに限らず、日頃から地区ネットワーク委員会と民生委員が連携して活動しており、例えば、自宅に引きこもって安全が確かめられない高齢者の方に対し、日頃から関わっていた

会場に入りきれないほどの参加者でにぎわった貼り絵教室



貼り絵は、ボランティア講師の白井はるさん(中央)が指導

高田ネットワーク委員長(左)とネットワーク推進員の村田さん



民生委員の大道美佐さんが村田さんに連絡、城東区社会福祉協議会の地域生活支援ワーカーに連絡し、支援に結びついたケースもありました。高田輝雄ネットワーク委員長は「聖賢地区は人口が密集

し、城東区の約1割を占めます。その中でネットワーク委員会としては、民生委員さんと合同でさまざまな問題に取り組むことで、地域にきめ細やかに目を配っていきたい」と話されています。民生委員の佐野正博さんもまた「困ったことがあった時に、民生委員でもネットワーク推進員でもどちらに声をかけても解決に向かえるよう、常に情報を交換し共有しています。地域は一つですから、風通しの良いことが大切なんです」と互いの連携の重要性を語っていました。

平成19年度 城東区地区ネットワーク委員研修会

悪質商法の 被害防止に向け

昨年11月9日、城東区地区ネットワーク委員を対象に研修会を開催しました。今回のテーマは「悪質商法の被害にあわないために」。大阪市消費者センターからお招きした講師の森川徳子さんが、具体的な事例やビデオを通してわかりやすく講義されました。

悪質商法については、大阪市消費者センターに年間2万4千件余り(18年度)の相談が寄せられており、依然として高齢者を狙った住宅リフォームに関する「点検商法」や、「かたり商法」などの相談が多いことや、最近では携帯電話に関するトラブルなど、時代背景に即した相談も増えていると語られました。

ビデオ上映では、吉本興業の芸人たちが消



吉田定治区社協会長から開催の挨拶

費者センターの職員と加害者、被害者に扮しておもしろおかしく悪質商法の口や相談場面を再現しており、来場者の笑いを誘っていました。「地域に関わるネットワーク委員の皆さんには今回の研修を活かし、地域の皆さんに注意を呼びかけてほしい」という森川さんの言葉には、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。



講師の森川徳子さん



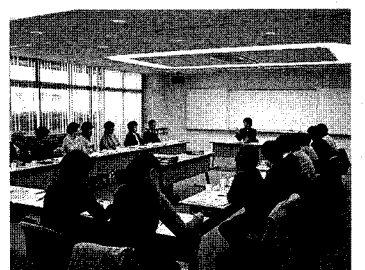
会場のようす

地区	ネットワーク委員長	保健・医療・福祉ネットワーク推進員	事務所・電話番号
諏訪	小林 種美	櫛部豊久子	諏訪老人憩の家 ☎6968-3200
中浜	吉田 定治	葛本 清	中浜老人憩の家 ☎6969-8485
森之宮	宮地 英一	宮上美奈子	森之宮老人憩の家 ☎6967-1124
東中浜	奥野 皖司	上堀 榮子	東中浜老人憩の家 ☎6969-3316
城東	江草 正久	上出 晶子	城東老人憩の家 ☎6968-0294
鳴野	梅田晋次郎	高橋千恵子	コミュニティホールしぎの ☎6961-5446
聖賢	高田 輝雄	村田 節子	聖賢会館 ☎6934-6161
今福	岡田 正義	菅田 圭子	今福老人憩の家 ☎6933-0057
放出	後藤 義弘	大谷佐地子	放出老人憩の家 ☎6968-7711
鯉江	河村 武明	中野 弘美	鯉江老人憩の家 ☎6935-6655
鯉江東	松岡 正宏	苫野 卓子	鯉江東老人憩の家 ☎6933-0092
関目	高島 勝	吉村 久枝	関目老人憩の家 ☎6935-8686
関目東	谷口 瑛	伊藤富美子	関目東老人憩の家 ☎6939-1089
葦	橋本 利昭	北尾 俊子	葦老人憩の家 ☎6930-1883
榎並	伊東 允二	青山佳代子	榎並会館 ☎6932-8264
成育	貞利 政和	越智 君夫	成育コミュニティホール ☎6930-0256

保健・医療・福祉ネットワーク推進員 連絡会を開催

毎月第2水曜日に、在宅サービスセンター「ゆうゆう」で推進員連絡会を行っています。連絡会では、各地区で行われている行事やイベントのほか、子どもから高齢者までに關するさまざまな出来事や相談ケースなどの情報交換を行っています。

また、新しくできた施設や作業所の見学をはじめ、地域ですぐに役立つレクリエーションの学習、保健福祉センターの協力による「食育」についての講習会などを開催して、日々の相談に活かせるよう努めています。



介護予防事業

いつまでも若々しく、 元気で暮らすために

「いくつになっても元気で、できる限り自立した自分らしい暮らしを送りたい」。誰もが願うことですね。

城東区社会福祉協議会では、今の元気を保つための4つの介護予防事業を行っています。対象は65歳以上の要介護認定を受けていない方で、介護予防が必要とされた方(特定高齢者)です。まずは、城東区保健福祉センターが年間を通して実施している「市民健康診査」とあわせて、65歳以上の方が受ける「生活機能チェック」をしてみましょう。そこで介護予防が効果的とされた方(特定高齢者)に参加をご案内しています。

生活機能に関するチェックを受ける
(市民健康診査または主治医で受診)

生活機能を改善することが大切な方

生活機能が保たれている方

地域包括支援センターで
個別のプランを作成

地域の
さまざまな活動に
参加しましょう。

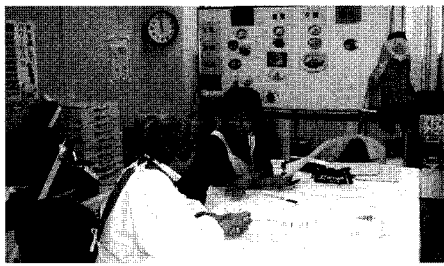
1 運動器の機能向上事業

マシンを使ったり、マットの上でストレッチや腹筋をするなど、立ち座りや歩行に必要な筋力をつけるための「筋力向上トレーニング」を、健康運動指導士の指導のもと、週2回(3ヵ月/全24回)行っています。



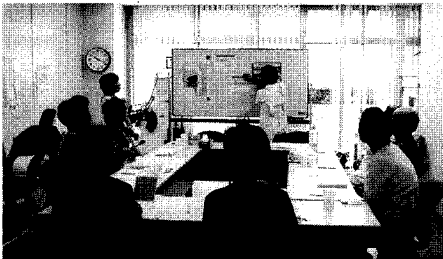
2 栄養改善事業

食事の楽しみやバランスの良い食事内容を、簡単で高栄養なおやつ作りなどの調理実習を通して、管理栄養士から学びます。月1回(6ヵ月/全6回)の実施です(実費徴収あり)。



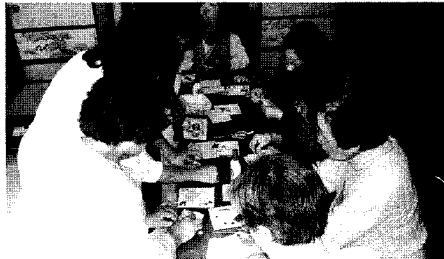
3 口腔機能向上事業

飲み込む力が衰えると食物などが肺に入ると、肺炎などの怖い病気につながることも。口の筋肉を鍛える舌体操や、正しい歯磨きなどを歯科衛生士から学ぶ「お口の健康講座」を月1回(3ヵ月/全3回)行っています。



4 閉じこもり等予防事業

積極的に外出し地域の方々との交流することをねらいに、保健・医療・福祉ネットワーク推進員や民生委員など地域の方々との協力で、手芸やゲームなどのレクリエーションを行う「いきいき教室」を月1回(6ヵ月/全6回)行っています。



「お口の健康講座」を訪ねました

口の健康を、ゲームや体操で楽しく学んで

この日が2回目の「お口の健康講座」。前回に引き続き、まずは「早口言葉」や、上下左右に舌を動かす「舌体操」でウォーミングアップしました。口のまわりの筋肉を鍛えることで、飲み込む力を高めることがねらいです。続いて、正しい歯磨きの仕方をクイズ形式で考えたり、実際に歯磨きをしたりして学びます。

参加者の増村峯子さんは「部分入れ歯にして外出が億劫だったけど、今では外で食事するのも楽しみ」だとか。また、浅野典子さんや井原義枝さんも「最初はどんなことをするのか不安だったけれど、参加してみたら楽しかったです」と話されています。

一歩一歩を、ともに。

城東区内で活動する小さなグループ、組織を紹介します。

障害者の自立と地域との交流の場へ。 いつでも「よってんか」

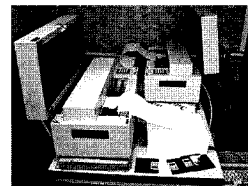
大阪障害者労働センター アド企画

大阪障害者労働センター アド企画が、「障害者の差別からの解放と、障害者と健全者の対等な関係の構築」をめざして設立されたのは平成4年4月。障害者団体の事務委託や印刷、ワープロ入力、点訳などを主な事業としてきたが、昨年6月には、新たにリサイクルショップ「よってんか」をオープンさせている。まずは点訳や印刷といった事業を展開されてきた経緯から、代表の田中次郎さんにお話をうかがった。



大勢の人で賑わった、去年3月のミニバザー

「ここが作業所登録をしたのは1984年、もう23年にもなると聞いています。



点訳事業で使用する点字プリンター

私はアド企画として設立された約15年前から関わってきましたが、その頃から障害を持っていても仕事をして収入を得られるようにと、点訳やワープロ入力、校正、テープおこしなどの仕事をするようになりました。点訳を始めたきっかけは、設立当初点字に詳しい視覚障害者の方がいたからで、これまで役所の職員向け情報紙や大学の視覚障害者向け試験問題やカリキュラムなど



代表の田中次郎さん(左)と、職員の山本浩一さん。「人と人のつながりをとても大切にする田中代表の人柄にほれてアド企画にいます」と山本さんは語る

の点訳を行っています」と田中さん。現在は6人のメンバーのうち、4人が点訳の作業に携わっているのだとか。

今後も点訳や印刷などの仕事を増やしていきたいと考える田中さんだが、課題は「点訳=ボランティア仕事」と捉え



リサイクルショップの店内は、地域の方々から寄せられた商品が所狭しと並んでいる

られがちで、事業として認められにくいことだと語る。「ボランティアの方々の存在はありがたいのですが、どうしても技術に個人差があり、視覚障害者の方々にとって解読しにくい場合もあります。誰もが正しく読める点字を正確に打つという私たちの仕事の質の高さや、その必要性をPRするために役所を中心に営業していきたいと考えています」と田中さんは話された。

また以前から、地域との交流を積極的に行っていきたいと考えていた田中さんたちが、その窓口として始めたのがリサイクルショップ「よってんか」。

きっかけは去年3月に6団体合同で開催したミニバザーだったという。「初めての企画だったけれど、近隣の方々がたくさん来てくださって大成功でした。その時に売れ残った商品は次のバザーま

で置いておこうと思ったのですが、常時買い物していただける店にはどうかという声が作業所内からあがったので、大変でしたけど何とかオープンしました。以前は、地域とつながることが難しかったけど、今はこのお店が地域と交流する窓口になっています」と田中さん。衣類や食器、本、石けん、洗剤といった商品は全て近隣の方々のご厚意によって集まったもので、なかにはバーバリーのスーツやスカートなども超格安で売られている。「ぜひ、気軽に“よってんか!”。店頭では、田中さんたちアド企画の皆さんの明るい笑顔に出会えることだろう。

リサイクルショップ「よってんか」

子ども服をはじめ、古本、CD、食器、アクセサリなどのリサイクル商品を格安料金で販売。家の中に眠っている不要品の提供もお願いしています(出張引き取りもあり)。

城東区東中浜2-10-13
緑橋グリーンハイツ1F
☎ 06-6968-3130

■営業時間 午前10時～午後5時
■定休日 土・日曜日・祝日



